



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No13
文責 芹川博文
7月5日(金)

「何色の花が咲くか」は楽しみ 「どんな花が咲くか」は育て方次第 ～ 菊まつり実行委員 菊花同好会の皆様のご指導 全校生徒で鉢上げ ～

「何色の花が咲くのか楽しみです。」「今も去年の菊を家で育てています。」など様々な声が聞かれました。6月28日(金)に、菊まつり実行委員会、菊花同好会の皆様のご指導の下、今年も北中全校生徒で鉢上げをすることができました。

菊の「達人」によると、「これからが大切。夏休みに入り、水やりが当番になるから。水のかけ忘れはいかんけど、やりすぎはまだいかん。根腐れが一番怖い」とのこと。

何色の花が咲くかは、その菊で決まっていますが、どんな花が咲くのかは、これからの育て方次第。楽しみと共に責任の重さを感じました。



自分を語る時 空気が変わる

～人権集会でつながる北中生の思い～

「感情で行動しない自分になりたい」「水俣病問題もハンセン病の問題も共通していると分かりました」「朝、自分が寝ているときに母は仕事に出かけます」などなど、各学年で学んだ学習や自分の体験や思いを、自分の言葉で語りました。

学年を超えて思いを出し合えるのが北中の良さの一つ。「事実を知ることが大切だと分かりました」の感想の通り、これからも学び続け、考え続ける生き方を目指してほしいと願います。



優しさに包まれて

～ 読み聞かせボランティア MUM の会 ～

読み聞かせボランティア「MUM(マム)の会」の「MUM」とは、菊の英語「chrysanthemum(クリサンセマム)」に由来しているとのこと。第1回目の読み聞かせは、どの教室も優しい空気に包まれました。

テレビや映画と違い、絵本や紙芝居にしかないもの、それは想像力かもしれません。その絵本や紙芝居を選び、朝の時間に中学校に来ていただいた方の思いに触れた生徒たち。読み聞かせの温かさを感じたことでしょう。



雨の郡市中体連 最後まで頑張りました

◆テニス(女子団体) 3位 リーグ戦 1試合目 負 (対 合志中)
2試合目 負 (対 西合志中)

雨に悩まされた今年の郡市中体連。北中では、テニス部は終了まで1週間以上かかりました。これから県大会を迎える部や生徒、3年生が引退し1、2年生の新チームになる部など、新たな一歩となります。

本気だからこそ・・・「楽しむ力」が試合をつくる

～ トップアスリートの言葉から ～

最近、印象に残った新聞記事を紹介させていただきます。

スポーツを「楽しむ」 ※令和6年6月30日 熊日新聞より

4年に1度の祭典、パリ五輪が間近に迫った。7月26日の開幕を前に、出場権を懸けた熾烈なレースに全力を尽くす熊本県関係選手を追いかけて全国を飛び回り、取材を重ねている。トップアスリートへの取材から、スポーツの原点は「楽しむ」ことにありと改めて感じる。

印象的なのは、3度目の五輪に挑むバドミントン女子シングルの山口茜選手の言葉だ。世界選手権で2連覇した実績を持つ27歳。初のメダル獲得へ期待が高まる中、報道陣も五輪での目標を聞き出そうと必死だ。

ただ、山口選手は「自分のために楽しみたい。それが一番良いプレーにつながる。笑って終わりたい」と繰り返してきた。山口選手にとって「楽しむ」とは「駆け引きをして試合をつくること」だという。10代から日の丸を背負い続ける経験に基づく言葉はシンプルだが、深みがあった。(後略)

本気だからこそ、「楽しむ力」が大切になるということでしょうか。この夏はオリンピックで湧き上がることでしょう。アスリートの思いも想像しながら観戦したいと思います。3年生にとっては「誘惑」となるかもしれませんが、逆に力にして受験の夏、挑戦の夏を過ごしてほしいと願います。